

「うちの取組」ーワーク・ライフ・バランスと人材多様性 (diversity) の促進を目指してー



独立行政法人理化学研究所
人事部人材開発課 谷 由美
(男女共同参画担当)

1. 理研の概要と歴史

理研は、1917年(大正6年)財団法人として創設以来、約90年の歴史を持つわが国唯一の自然科学の総合研究所として、物理学、工学、化学、生物学、医科学などの分野で、基礎から応用まで幅広い研究を進めています。

2. 人員の内訳

常勤職員総数3,103人(平成20年10月1日現在)のうち、女性研究系職員は803人(全体の約26%)、女性事務系職員は249人で、女性職員が全体の約34%を占めています。

3. 男女共同参画、ワーク・ライフ・バランスの取組

理研は、総括担当理事を委員長とする男女共同参画推進委員会を設置し、人事部には、男女共同参画専任の担当者を配置しています。女性も男性も、既婚者も独身者も、子どもがいる人もいない人も、1人1人が能力を発揮し輝く理研を目指し、仕事と生活の両立支援制度の整備をはじめとする様々な取組を行っているところです。特に、妊娠、出産、育児、介護などのいわゆるライフイベントにより、仕事の継続が困難な職員の支援に優先的に取り組んできました。ここでは、理研独自の取組であり、利用者からも好評の以下2つの取組についてご紹介します。

(1)「個別支援コーディネーター」・・・身近で具体的な問題を解決

仕事の継続を困難にする要因は、周囲の環境や考え方などにより1人1人実に多様です。そこで、「個別支援コーディネーター」が、職員からの相談を随時受け付け、スムーズに仕事を継続できるよう、適切な支援を検討、提案することにより、その多様な事情に個別に対応する取組で、有効と思われる施策は、順次全体の施策へと反映させています。

2006年度から試行的に開始したこの取組は、2008年度には92件の相談を受け付けました。年々、相談件数は増加していますが、その相談内容は、情報提供や支援制度の説明のみで解決するなど、気軽な相談窓口として定着しつつあると感じています。

(2)「妊娠、育児中の研究系職員の支援者雇用経費助成」・・・即効性のある支援

この制度は、妊娠中、産前産後休業中、育児休業中、育児期間中などの理由により、十分な業務時間が確保できない職員に代わり、従来の業務を維持、推進するための支援者を雇用する場合、その経費を研究所が助成するというものです。2007年度の助成上限額は100万円でしたが、最低限、産前産後休業期間に相当する4ヶ月程度は支援者を雇用できるよう、2008年度から、助成上限額を150万円に増額し、年間のべ30人前後の職員が利用しています。また、女性に限らず、男性も助成の対象としており、2008年度は6人の男性職員が利用しました。男性の家事、育児参加を促すのみならず、男性が利用することによる、管理職や同僚への意識啓発にも繋がっているようです。

<利用者の声>

- 産休や育休をとることで、室に迷惑をかけるのではと心配でしたが、速やかに支援者を雇用でき、業務が中断するもこともなく大変有難かった。今後も是非、この制度の継続を。
- 助成により、定時退出や休暇取得が可能となり、家事や育児を行い、配偶者の負担を軽減できました。(男性職員)
- 職場復帰後の業務をスムーズに再開することができました。

<上司の声>

○この制度そのものや、男性やアシスタントも助成対象者であることが、まだ知られていません。大変素晴らしい制度なので、是非、周知を。

○欲を言えば、もう少し長期間の助成があると更に助かります。

*助成期間は、できるだけ多くの職員が利用できるよう、妊娠中から子が2歳前後までの期間に限らざるを得ない現状です。しかしながら、育児は、当然その後も続くことから、1人あたりの助成額を減らし助成期間を延長するか、助成対象者を減らし助成期間を延長するか、などについては、議論のあるところです。

4. より働きやすい職場へ

理研は、和光研究所に続き、2009年5月、横浜研究所事業所内託児施設「りけんキッズよこはま」を開所するなど、インフラの整備も行ってきました。しかし、「制度はあるが、その制度を利用できる雰囲気がない」というような声は、理研に限らず聞かれる声ではないでしょうか。「制度があっても利用できないのでは意味がなく、利用しやすい雰囲気づくりの方が大事」との声もありますが、そのいずれも重要であることは言うまでもありません。どちらが先かという議論に終始するのではなく、まず、できる事から手を着け、現状を少しずつでも改善していくことにより、自ずと、「十分な支援制度が整っていて、それを利用しやすい雰囲気がある」という職場環境が実現するのではないのでしょうか。

男女共同参画の取組は、決して、子育て中の女性支援だけではありません。もちろん、それが不要だということではありませんが、最終目標に向かう一通過点に過ぎないということをきちんと認識し、あくまでも、「全ての職員にとって働きやすい職場づくり」に取り組んでいきたいと思っています。



「りけんキッズわこう」



「りけんキッズよこはま」

理研の男女共同参画：<http://www.riken.jp/r-world/gender/index.html>

【執筆者の紹介】

谷 由美 (たに ゆみ) 氏

<最終学歴>

青山学院女子短期大学 英文学科英語学専攻

<現 職>

独立行政法人理化学研究所

人事部人材開発課 男女共同参画担当